

SCHEME | 貧困農民支援 (2KR)

貧困農民支援とは…

貧困農民支援 (2KR) は、人間の安全保障の視点から、食糧不足に悩む開発途上国の貧困農民や小規模農民に対し、食糧作物 (米、麦、トウモロコシなど) の自給率の向上に役立つ肥料、農業機械といった農業資機材の購入を目的として行なう無償資金協力です。本支援は1977年に「食糧増産援助」として開始されました。その後、貧困農民の自助努力を促して自立を支援し、貧困の削減を図るという趣旨から、2005年に「貧困農民支援」と名称が変更され、現在アジア、アフリカ、中南米、東欧・CIS諸国などを対象地域として毎年実施されています。

JICSの役割

JICS は 1989 年の設立以来、国内や現地での調査を JICA (独立行政法人国際協力機構) から受託し、実施しています。

さらに1997年度からは、開発途上国政府との契約に基づき、調達代理機関として、公正で迅速な農業資機材の調達を行なうとともに、調達された資機材の配布状況や見返り資金の積立状況等をフォローする政府間協議 (コミッティ) の事務局業務を行なっています。

【見返り資金】

開発途上国政府が、本援助によって調達された資機材の価格の一定額を現地通貨にて積み立てる資金のことで、日本政府と協議の上で小農支援事業、貧困対策事業を中心とする経済開発に資する事業等に使用される。



イエメンー日本とイエメン両政府関係者によるコミッティ



アルバニアー調達された農業機械の引渡し式



マダガスカルー田植の様子。マダガスカルは1人当たりの米の摂取量が世界一といわれている



ブータンーブータン向け食糧増産援助 (2KR) 20周年を記念して発行された現地の記念切手

業務の流れ



■ JICSの実施業務

事業実績 (2006年度)

■ 地域別実績 (件数)



ケーススタディ CASE STUDY 貧困農民支援 (実施時の名称は食糧増産援助) (スワジランド王国) [2003年度]

●事業概要：スワジランドの農業事情改善のため、農業機械を調達。また、同国からの要請により、日本人技術者を現地に派遣し、農業機械についての技術研修を実施。

技術研修により、有効活用される農業機械

農業機械を輸入に依存しているスワジランドでは、貧困農民支援 (2KR) によって調達された農業機械は、機械を購入できない小規模農民にリースされ、農耕作業に貢献しています。現地での調査の結果、現地のオペレーターが機械の取り扱いに不慣れなことや、メンテナンスの知識不足によって機械の故障が発生していることが判明したため、日本人技術者を現地に派遣し、技術研修を実施しました。

この技術研修に対し、同国経済計画開発省次官スチーブン・モスタ氏からは、「スワジランド政府が取り組んでいる貧困削減に対し、日本政府が長年2KRを通じて協力してくれていることに感謝しています。今回の技術研修によりトラクター故障が減り、農業機械が有効に活用され、多くの耕地が耕され、トウモロコシの生産量が増加し、結果的にわが国の貧困削減につながることを期待しています」との発言があり、本件に寄せる大きな期待が表明されました。



トラクターに乗り込み、現地のオペレーターに技術指導する日本人技術者